

決 算 報 告 書

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

電話番号 090-9631-1610
住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3

法人名: 特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

活動計算書

2017年 4月 1日 ~ 2018年 3月 31日 まで

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	80,000	
賛助会員受取会費	0	80,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	0	0
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	6,432,414	6,432,414
4. 事業収益		
ステーション事業収益	4,707,869	
バイオマス普及事業収益	2,133,929	
工房運営事業収益	3,429,042	
		10,270,840
5. その他収益		
受取利息	1	1
経常収益計		16,783,255
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
賃金	3,784,000	
法定福利費	687,961	
臨時雇用費	10,000	
福利厚生費		
人件費計	4,481,961	
(2) その他経費		
売上原価	1,834,631	
外注費	1,371,494	
租税公課		
旅費交通費	1,418,632	
通信運搬費	72,196	
支払手数料	45,997	
車輛費	1,157,827	
減価償却費	178,565	
消耗品費	2,173,178	
水道光熱費	954,998	
雑費		
会費・図書費	7,066	
地代家賃	1,960,000	
賃借料	0	
その他経費計	11,174,584	
事業費計		15,656,545
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	744,000	
法定福利費	181,384	
福利厚生費	12,900	
人件費計	938,284	
(2) その他経費		
外注費	64,800	
租税公課		
旅費交通費		
通信運搬費	4,620	
支払手数料	59,736	
減価償却費		
会議費		
消耗品費	168,968	
賃借料	6,480	
雑費		
その他経費計	304,604	
管理費計		1,242,888
経常費用計		16,899,433
当期計上増減額		△ 116,178
III 経常外費用		
過年度損益修正損		66,224
経常外費用計		66,224
当期正味財産増減額		△ 182,402
前期繰越正味財産額		△ 10,822,895
次期繰越正味財産額		△ 11,005,297

法人名： 特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

貸借対照表

2018年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	△ 69,900		
ゆうちょ銀行	165,056		
未収金			
流動資産合計		95,156	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
什器備品	438,737		
有形固定資産計	438,737		
固定資産合計		438,737	
資産合計			533,893
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金A(所得税)	33,190		
預り金B(住民税)	6,000		
流動負債合計		39,190	
2. 固定負債			
役員借入金	11,500,000		
固定負債合計		11,500,000	
負債合計			11,539,190
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		△ 10,822,895	
当期正味財産増減額		△ 116,178	
正味財産合計			△ 10,939,073
負債及び正味財産合計			600,117

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。
無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。
- (2) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	ステーション事業	バイオ普及事業	工房運営事業		事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益							
1. 受取会費					0	80,000	80,000
2. 受取寄付金					0		0
3. 受取助成金等	6,432,414				6,432,414		6,432,414
4. 事業収入	4,707,869	2,133,929	3,429,042		10,270,840		10,270,840
5. その他収益					0	1	1
経常収益計	11,140,283	2,133,929	3,429,042	0	16,703,254	80,001	16,783,255
II 経常費用							
(1) 人件費							
給料手当			3,784,000		3,784,000	744,000	4,528,000
臨時雇用費	10,000				10,000		10,000
福利厚生費					0	12,900	12,900
法定福利費	60,137		627,824		687,961	181,384	869,345
人件費計	70,137	0	4,411,824	0	4,481,961	938,284	5,420,245
(2) その他経費							
売上原価		1,718,338	116,293		1,834,631		1,834,631
外注費	1,254,306		117,188		1,371,494	64,800	1,436,294
租税公課					0		0
旅費交通費	1,237,657	51,693	129,282		1,418,632		1,418,632
通信運搬費	1,350		70,846		72,196	4,620	76,816
支払手数料	8,422	2,160	35,415		45,997	59,736	105,733
車輛費	1,012,505		145,322		1,157,827		1,157,827
減価償却費	3,791	288	174,486		178,565		178,565
会議費					0		0
消耗品費	959,007	30,811	1,183,360		2,173,178	168,968	2,342,146
水道光熱費	4,300		950,698		954,998		954,998
雑費					0		0
会費・図書費	7,066				7,066		7,066
地代家賃			1,960,000		1,960,000		1,960,000
賃借料					0	6,480	6,480
寄付金					0		0
その他経費計	4,488,404	1,803,290	4,882,890	0	11,174,584	304,604	11,479,188
事業費計	4,558,541	1,803,290	9,294,714	0	15,656,545	1,242,888	16,899,433
当期経常増減額	6,581,742	330,639	△ 5,865,672	0	1,046,709	△ 1,162,887	△ 116,178

3. 使途等が制約された寄付等の内訳

(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
1. 森林山村多面的機能發揮対策交付金	0	4,376,000	4,376,000	0	
2. パルスシステム生協助成金		1,400,000	1,400,000	0	
3. 岩泉町29年森林づくり事業補助金		456,414	456,414		
4. プッシュクローバー助成金		200,000	200,000		
合 計	0	6,432,414	6,432,414	0	

4. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取得	当期減価償却額	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産							
機械用動力設備(工房運営事業)	400,000		28,597		201,382	△ 227,215	172,785
デモ用薪ストーブ1台(バイオ普及事業)	200,000		288		10,288	△ 190,000	10,000
スライドソー(工房運営事業)	2,300,000		109,655		297,168	△ 2,112,487	187,513
スライドソー三角定規(工房運営事業)	160,000		7,628		20,671	△ 146,957	13,043
簡易製材機(工房運営事業)	600,000		28,606		77,521	△ 551,085	48,915
手動ウインチ 1台(ステーション事業)	126,000		3,791		10,272	△ 119,519	6,481
							0
							0
合 計	3,786,000	0	178,565	0	617,302	△ 3,347,263	438,737

当期減価償却額 管理部門 288 バイオ普及事業 174,486 工房運営事業 3,791 ステーション事業

5. 借入金の増減内訳

借入金の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
役員借入金	13,000,000	1,001,000	2,501,000	11,500,000

※前期預かり金未計上分を過年度損益修正損にて計上

法人名： 特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

財産目録

2018年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手許現金	△ 69,900		
ゆうちょ銀行	165,056		
未収金 (環境基金・宮城県)			
流動資産合計		95,156	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
什器備品			
機械用動力設備	172,785		
デモ用薪ストーブ 1台	10,000		
スライドソー	187,513		
スライドソー三角定規	13,043		
簡易製材機	48,915		
手動ウィンチ 1台	6,481		
固定資産合計		438,737	
資産合計			533,893
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金A(所得税)	33,190		
預り金B(住民税)	6,000		
流動負債合計		39,190	
2. 固定負債			
役員借入金			
理事1名より	11,500,000		
固定負債合計		11,500,000	
負債合計			11,539,190
正味財産			△ 11,005,297

事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

電話番号 090-9631-1610
住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3

平成29年度事業報告①

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1.事業総括

平成22年4月にNPO法人を立上げ丸8年が経過しました。本報告書では、平成29年度決算及び29年度に実施した事業の概略についてご報告申し上げます。

1.29年度決算について

平成29年度決算は、単年度にて小さなマイナス計上になりました。帳簿上は2期連続プラスとはなりませんでしたでしたが、減価償却費として経費計上した分を除くと、僅かですが2期連続となる実質黒字を計上することが出来ました。その大きな要因が、岩手県岩泉町でスタートした「原木シイタケ用ホダ木生産」事業が、初年度にも関わらず当初計画の130%を超える成果を出せたことです。新規事業の詳細はこの後ご報告させていただきます。

29年度は、補助金や助成金も含めステーション事業(森林整備他)だけで、全体の66%の収益を占め、事業規模的にも単独事業で1,100万円超え越えました。事業全体の収益も、補助金・助成金も含め1,678万になり、前年対比でも118%の伸びを達成できました。

補助金や助成金に頼らざるを得ない状況を脱するのはまだまだ先の話になりそうですが、「フォレストサイクル元樹」の平成29年度の自主事業による収益は、事業全体の66%を占めここ数年上昇傾向で進んでおります。法人立上げ当初から、理念や目的に沿った自主事業で収益(活動経費)を上げられる強い組織作りを念頭に、「頭で考えるよりまず行動する」を信条として、多くの失敗も重ねながら突き進んできました。いろんな方々の助けを借りながら、運も味方してくれ、スタッフの努力と精進・会員の方々の陰ながらの応援等々、3年前には想像できなかった嬉しい動きをしています。

29年度はスタートも好調でしたが、岩泉での活動に目処がつき一息ついた頃、12月以降の新たな依頼(工房での受注製作・材の搬出・遠隔地での薪ストーブ設置等々)が全事業合計で大小10件近く有り、3月の年度末ギリギリまで予定をこなしてゆく様な状況が続きました。そんな状況にて、資金的にも余裕が出た為、工房作業や山作業で今まで欲しくてもなかなか買えなかった備品・装備・設備等を年度内に大幅に拡充しました。同時に借入金の返済にも回すことが出来、毎月の栗原-岩泉間のガソリン代や導入したトラックの修理等、支出もかさみ収益とほぼ同じ位計上しましたが、全てがその先に繋がるものと信じています。

”フォレストサイクル元樹の会員でいてくれる”だけでも皆様には感謝いたします。今後も、法人の理念や目的から外れることなく、NPOとして更なる事業展開・飛躍を目指して進んでいきます。山の活動が今までより更に遠くになり、活動に参加することが物理的に厳しい状況ではありますが、団体HPの活動スケジュールにて岩泉町での活動日程がわかります。田舎ですが本当にいいところです、観光がてらでも近くにお越しの際にはお声がけください。また、会員の方々には出来れば陰ながらも構いませんので、今後とも継続会員として年会費にて応援していただけることを切に願っております。



導入した超仕上げ用ドラムサンダー



雪上搬出用に導入の中古運搬車



導入したルーター&テーブル

平成29年度事業報告②

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

2-1 森林整備保全事業について

初年度ホダ木生産の成果目標として掲げた4,000本に対し、5,300本のホダ木原木を岩手・宮城の複数の生産農家に出荷、目標対比130%と初年度として大きな成果を達成できた。特に、新設の作業路を活用した伐採→集材→搬出等一連の施行効率の良さが、目標を大きく上回る成果に貢献した。

コナラの伐採は10月初旬から中旬以降スタートの想定にて、4月-5月途中までは直近3年間で実施を計画している森林の状況及び林況調査からスタート。一昨年台風の爪痕が、特に作業道であった場所は予想以上に傷が深い現実を目の当たりにし、また果たしてコナラの群生が有るのか？何処に有るのか？どのくらいの規模で有るのか等、樹種の判別もほとんど出来ない中複数の樹種判別用書籍を携え森の中を歩くところからスタートしました。



台風痕跡の斜面登坂&林況調査



GPS位置確認&選木・マーキング

初めての広葉樹林での活動・全体で200haを超える広大な面積・スタッフ共々毎月一定期間県境越泊まりがけ作業・GPS端末を活用した境界確認や場所の特定・傾斜のきつい現場での作業や道具を持つての上り下り・作業路がない場所からの集材等々初めて経験することだらけの日々に加え、今まで経験した杉の長尺材の生産とのホダ木生産の施行方法や手順の違い・片側が谷の新設作業路でのトラック走行・材を積んだ状態での傾斜15度作業路のバック走行(スイッチバック)等々、不安や戸惑いと試行錯誤の連続でした。最終的に、7月までに約2,000本のコナラにマーキングをすることが出来、1本から平均7本取る想定でも目標数量はクリアできる目処が立ち、秋の本番まではひたすら伐採・集材の為のスペース確保に向け、障害となる立木の除去・林地整理に追われる日々を過ごしました。現場は岩泉の中心部から約20km北に位置しますが、夏は30℃を超える暑さですが湿気がなく、扇風機の出番は一度もありませんでした。



斜面での不要木除去作業1



斜面での不要木除去作業2

平成29年度事業報告③

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

2-2 森林整備保全事業について



新設作業路の最初のスイッチバック(15°傾斜)



新設作業路での自社トラックによる搬出

29年度は、2筆合計13haの中の主に5箇所ではホダ木生産の施行を実施。9月迄にマーキングしたコナラの群生ポイントは、みな勾配がきつい斜面であり道具を持って上り下りするだけでもしんどく、斜面自体距離があり、伐採後如何に集材し搬出するかも試行錯誤しました。今まで使っていたウッドキャップをウィンチで引くのは体力消耗の他にもリスクが大きいと判断しやめ、ポイド菅(ダンボール)を使った「トイ集材」にチャレンジしました。予想以上に集材は捗るのですが、管を繋げ長くする作業と終わった後の片付けが大変なことを実感。それでも10月中旬に作業路が1本完成するまでの間、2,000本以上のホダ木の集材・搬出を何とか終わりました。代々山に手を入れてた様子が散見され、町道から近い群生地から施行を進めた結果、立木1本から平均9本と、予想を超える量のホダ木が生産可能であることを確認。



作業路無い斜面でのトイを使った集材



搬出前の集材済ホダ木原木(作業路上)

作業の手順・やり方も最初戸惑いました。ホダ木は末口直径7cm-14cmが標準的な規格サイズで、皮に傷をつけないよう伐採～集材しなければならず、またスギの様に直径により単価が変わるのではなく1本単価の為、より多くトラックに積み、且つ小口径が小さいほうが作業も楽な為、玉切りも末口から規格サイズに落としていきます。最初にきつい斜面での施行を実施した為、後半に新設された作業路を使っの、伐採・集材・搬出の効率の良さを、作業路での施行は初めてでしたが大いに実感しました。

20年スパンでの事業構想・計画の立案、対象森林関連図面の取得及び精査、地元関係機関との調整や根回し、山主との契約書締結、法人内部の調整・行政手続きなど、春からの活動に備え実活動前から考える準備を整え、活動後も地元森林組合や町役場等関係各所との連絡を密にし、伐採届等活動に必要な手続きも完了。また岩泉町内に法人事務所を新設し法人登記も済ませ、岩手県での活動に支障が出ないよう対応したことも、行政機関との関係構築に好影響をもたらしたと考える。29年度岩泉での本事業稼働日数は93日間。経費名目で山主にも相応の利益を還元することが出来ました。

平成29年度事業報告④

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

2-3 森林整備保全事業について

岩泉の現場へは、1月も入りました。当初は雪が深く作業自体が出来ないことを想定していましたが、思ったよりも雪が少なく、導入した集材用運搬車の試運転も兼ねて数百本の出荷に繋がりました。

搬出は、自家用分も含め自社トラックが大活躍しました。径にもよりますが300-350本積むことが出来ますが上りは大変でした。29年度はホダ木の生産以外にも、福島県福島市と仙台市の共に個人からの依頼で伐採木の搬出作業の受注や、向山こども園からのトラック1台分の広葉樹の注文もあり収益に貢献。

活動に従事したスタッフの誰一人怪我・体調不良・事故も無く、林地内でのクマの痕跡は幾つも見つかるも、クマ対策も何重にも常に怠らず遭遇も無かった。2年目の生産に向けた選木・マーキングも実施済で有り、初年度実施した施行含め全体的な課題や改良点を修正しながら2年目に入る予定です。

また、林業活性化及び若い林業就労者確保を目的に、平成29年度から本事業実施県である岩手県の林業技術センターを拠点として「いわて林業アカデミー」がスタートした。18歳～30歳の若者を対象に将来の林業担い手を育てるべく、1年をかけて知識・技能を修得の他、仕事に必要な様々な資格取得をして現場での即戦力としての人材育成を図るもの。平成30年度研修生の中には、岩泉町や栗原市出身者もおおり、本事業の大きな目的の一つである次世代の担い手確保に向け。アカデミーの動向にも目を向けアプローチをしてゆきたい。



クローラ運搬車での雪道作業路搬出



出荷を待つホダ木原木土場風景



自社トラックでのホダ木原木出荷

3. 薪ストーブ・薪の普及活動について

29年度も2台の受注契約がありました。内1台は28年度申込分の本体と煙突の建物内への取付で、2台分とも29年度収益に計上された分です。2台とも団体HP経由での申込で、1台は年度末ギリギリの工事で且つ、愛知県安城市からの新築個人住宅用の受注分でした。往復1,500kmをトラックにて薪ストーブと煙突部材を積みスタッフ全員で夜通し走り、朝8時から設置工事を実施。夕方前に終了し、一昨年愛知から一週間以上ボランティアにてお手伝い頂いた、青山さんと再会しお土産のホダ木20本を下ろし、夕食をご馳走になりトンボ帰りで翌朝戻ってきました。岩泉の現場では、規格外のナラ材が林地に眠っています。年が明け30年1月-3月の間に、初めて薪の販売を頼まれて実施しました。眠っていた油圧式の薪割り機も修理し、次年度からの薪販売に備え薪作りも年度末から始動しました。



久々のオープン無薪ストーブ設置工事



油圧式エンジン薪割り機での広葉樹薪作り

平成29年度事業報告⑤

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

4-1「間伐材工房 元樹」の運営について

工房が稼働してから丸5年が過ぎました。28年度から良い動きが29年度も継続して続いています。工房事業のトータル収益は28年度には及ばないものの、200万の大台を超え受注件数は28年を大幅に上回りました。良い傾向だと思っているのは、単発だけでなく継続的に発注して頂いている事業者ができてくるということ。仙台市の向山こども園とは5年以上継続して良好な関係が続いており、29年度も可動棚の追加製作を30台発注いただいた他に、広葉樹原木&輪切りの大量発注も頂きました。園で開催するイベントへの参加も毎回声をかけてもらい参加しています。また、ヨーロッパの木製玩具を中心に事業を展開している仙台の「ユーロバス」さんとも、何かにつけ受注製作が続いております。

29年度も、HPからのオーダーや問合せが時々あり、個人の方だったり事業者の方だったりその殆どが正式な受注に繋がりました。東京の府中市に開園する保育園からの”間伐材ログキッズ”の受注(3set)の他、塩釜市に新規開園予定の小規模保育園への家具・遊具の複数受注など、HPやネットワークを通じての発注が続き、年度末まで慌ただしい日々を過ごすという今までにない嬉しい悲鳴が続いた1年でした。



発送準備整った間伐材ログキット



組み木学習機の納品(新1年生)



小規模保育園用受注製作の棚①



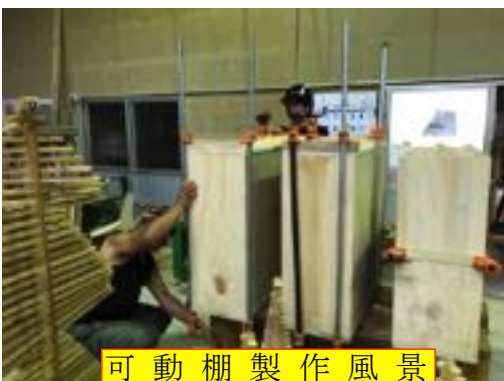
小規模保育園用受注製作の棚②



小規模保育園用耳付プレイスタンド



開園する小規模保育園の遊具納品



可動棚製作風景



納品待ちの向山用可動棚



ネット販売用アニマル受注製作

岩泉の広葉樹林での活動に伴い、今まで継続してやってきた間伐材をはじめとする未利用材・林地残材の活用の一環として、新たに始めたことが1点あります。木材の乾燥方法として「水中貯木乾燥」の検証をスタートしました。現在は経済的な事情で殆ど見なくなった”貯木”。昔は国内のあちこちで実施されていた乾燥方法の一つでした。工房では、原木丸太のままではなく、板や輪切り状態での検証を5月頃から始めました。期待できるメリットとして、割れや反りの発生の抑制・貯木後の乾燥時間の短縮・木材の強度とクオリティーアップ等の効果が期待できるようで、厚みや樹種による貯木期間及び乾燥期間を色々試しながら実施しています。水に漬け込むことにより不純物が排出され、皮を含め木の表情がよくなります。正に「風呂上がり」という言葉がぴったりです。まだまだ答えは見つかりませんが、付加価値を付けることで材の需要に繋げてゆく計画です。

平成29年度事業報告⑥

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)



10mm-30mm厚の板材や輪切り材、直径100mm未満原木等貯木期間を変え、水も交換しながら検証



乾燥期間も厚み毎に日数を変えたり陰干し等も含め条件を変えて検証中

5. 木育活動について

29年度は、岩泉でスタートした新たな事業に集中することを第一に考え、加えて工房の稼働も目一杯だった為、自主事業としての計画はせず積極的に動くことは敢えてパスすることにしました。ただ毎年協力という形で参加している、仙台市新緑祭・向山こども園の木工市とキリスト子ども市は予定に組み込み参加し普及活動に努めました。また、泉区内の小学校の子供会行事も3年連続で声がかかりウッドブロックを使った「ナイアガラの滝崩し」のサポートという形で参加した他、福島市内の「ささき牧場カフェ」の依頼でチェンソー講習の講師として招かれ活動の広報に努めネットワークの広がりやのキッカケ作りになったと確信しています。



毎年100人規模の子供たちが参加する、泉区内小学校子供会の新1年生歓迎行事に協力



毎年12月初旬に開催される向山こども園の「キリスト子供市」(チャリティーバザー)